

第6期 福岡市男女共同参画審議会

ワーク・ライフ・バランス・女性の活躍促進部会（第2回）議事録

1. 開催日時 平成27年7月22日（水）14：00～16：15
2. 場 所 福岡市役所 1504会議室（15階）
3. 出席者（出席委員 6名）
久留委員、鈴木委員、甲斐委員、岡崎委員、藤委員、中村委員
（欠席委員 なし）
（福岡市 3名）
市民局事業推進課長、男女共同参画課課長（女性活躍推進担当）、
男女共同参画課長
4. 傍聴人 1名
5. 議 題（1）男女共同参画基本計画（第2次）の平成26年度実施状況に対する
評価について
（2）男女共同参画基本計画（第2次）の総合評価について
（3）男女共同参画基本計画（第3次）の原案について
6. 議事概要（○…委員 △…事務局）

【議題1 男女共同参画基本計画（第2次）の平成26年度実施状況に対する評価について】

①「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進」について

- 「い～な」ふくおか・子ども週間の登録企業を増やせばいいということではないと思う。男性の育児休業取得の促進なども、審議会意見の文言に加えていいのではないか。
- 企業への働きかけだけでなく、市民への働きかけや意識啓発も必要だと思う。

- 男性に対しての啓発が、これからの5年間に重要だと思う。
- 男性イコール企業ではないが、現実的に男性の育児休業取得などはあまり進んでいないと思う。
- 育休はまだハードルが高いかもしれないが、介護休業は、ぜひ男性にとってもらいたと思う。
- △ 例えとして育児休業の取得促進などを入れて、男性のワーク・ライフ・バランス、育児や家事への参画を働きかけていくということ、うまく表現できたらと思う。
- △ 審議会意見の文案については、次回確認していただく。評価の達成度と今後の方向性についてはどうか。
事務局の自己評価は、達成度は「C」、今後の方向性は「充実」としている。
- 事務局の自己評価と同じ、達成度「C」、今後の方向性「充実」でいいか。

(異議なし)

②「子育て支援の充実」について

- 未入所児童数が1,500人、待機児童数は61人、この差はなにか。
- △ 未入所児童数というのは、実際に保育所等に入れていない人数である。待機児童というのは、他に利用可能な保育所等があるが、特定の保育所等を希望するので入らないといった理由等で入れていない児童である。家や勤務先の近くには入れるところがあるが、希望している保育所等があいていないので、実際入所していないという子どももいるということ。
- 入れていないというのはわかるが、その人はどうしているのか。

- △ 入所せずに待っている。
- 数値目標として、待機児童を挙げているのはなぜか。
- △ 未入所児童もなくなればいいが、まずは待機児童からということ。
- 待機児童の数値についても触れたほうがいいと思う。61人まで減っている。ただし、未入所児童はこれだけという感じで。
- 昨年ゼロを達成していて、今年また増えているので、書きづらいというのもあると思う。
- 目標ゼロに対して61ということ。これをもとに「B」という評価になる。
- △ 2,000人近い定員増の取組により、待機児童については61人まで減ってきているが、未入所児童数は1,500人となっているということを書いてはどうか。
- それを入れたほうがいいと思う。2,000と1,500をつい比べてしまいそうになるし、現実の問題は、やはり未入所児童なので。
- △ 定員数としてはほぼ確保しているが、そういった個々のニーズに応じていくと、どうしても1,500ぐらい、ニーズに応えられていない部分があるということ。そのニーズに応えられるかという、そんなにたくさん、いろんなところにつくれるということでもない。
- 今後5年とか10年とか長いスパンで考えていったときに、子どもの数はどんどん減っていくわけで、住民が望まない場所にどんどん認可をつくったところで、また別の問題を新たに生む可能性もある。今回つくっていただいたように、未入所児童の要因を分析して、対策に取り組んでいこうという姿勢については重要だと思う。
- 配偶者控除などが変わると働き続ける人が結構出てくると考えると、もっとニーズは出てくる。福岡市はまだ人口が増えるといっているし、足りなくなるかもしれない。

△ 整備自体は、今年度も一定数の定員を増やしていくようにしている。

○ 達成度と今後の方向性について評価したい。

△ 事務局の自己評価は、達成度が「B」、今後の方向性は「充実」としている。

○ なかなかAというのは難しいので、Bで頑張ってもらおうということで、「B」と「充実」でいいか。

(異議なし)

③「働く女性への支援」について

△ 前回質問のあったアミカスのセミナー受講後の就職率と資格の取得について回答する。

アミカスで就職支援セミナーを、定員30人ぐらいで年3クール行っている。昨年度でいくと、1期目が29人の参加に対して就職が決定した方が13人、2期目が23人に対して6人、3期目は、20人に対して8人という結果が出ている。

資格の取得について、商業簿記3級の講座については、26年度の合格率は78.5%、県の一般の平均は47%で、27年度は47.3%である。ファイナンシャルプランナーの合格率が87.5%、色彩検定の合格率が82%となっている。

女性の起業支援セミナーについては、平成24年度までの卒業生に対して調査を行っている。397人の調査対象者に対して有効回答109人の調査ではあるが、そのうち起業した方が64人で、起業率としては59%となっている。

○ アミカスのセミナーは結構成果が出ている感じがする。

△ 補足すると、アミカスの就職支援セミナーを受講する方は、どちらかというとも再就職しようかなという段階の人が多くて、受講してすぐ就職活動にという感じではないという実態がある。就職活動をしたいとか、するという段階の方は直接ハローワークに行って、ハローワークのセミナーを受講しているケースが多いと聞いている。

- 回答数が少ないが、起業率59%は結構高いと思う。

- △ 有効回答が少ないので、回答していない人の中に起業していない人が多いのかもしれないので、実態としては若干下がると思うが、起業を目指す女性も増えてきているのもあると思う。

- 一般の合格率を上回るなど、かなり効果が出ていると思うので、審議会意見に記載してはどうか。

- 創業支援でスタートアップカフェをしていると思うが、実施状況に記載しないのか。

- △ スタートアップカフェでの女性向け講座は今年の6月から始めた事業のため、26年度の実施状況には記載していない。

- 来年は、女性の起業家が多くなってきたという成果があるかもしれない。あそこは場所もいいし、PRがすごく効いている。

- △ アミカスでも6回連続の起業支援セミナーをしているが、天神で夜に単発でやるということで、もっと気楽に来られるという感じである。先日のセミナーも30人定員が40人となった。

- △ 今日も行うが、申し込みが66人ぐらい来ていると聞いている。

- △ 起業への関心はかなり高いというのが、アンケート調査でも出ている。

- 女性だけに限ったことではないが、非正規の方たちが多くて、ずっと非正規でいると、それがひいては男女間の賃金なり生涯所得なりの差につながる。そういうところを時代的には入れなくていいのか、福岡市だと難しいとは思いますが。

- 企業の中での啓蒙活動を進めてほしいということであれば、男女関係なく、正規、非正規にかかわらず、教育・研修を受けられるような取組をもっと進めていけるように、啓蒙活動をしてもらいたいというような文言があるといいのかなと思う。

- どちらかという、企業側も非正規で使ったほうが良いというのがあるが、やはり本人の意識というか、いつかは正規になるんだという意欲とか勉強とかいうのがあると違うと思う。そういう意味で、どちらかという、働く側の意識啓発である。
- 最近ではデータをとると、働く人が一番求めているものは働きがいや自己成長がトップに来ることが多い。だけど、それが提供されない、そして賃金にも反映されないというのがある。
- △ 正規や非正規などの働き方のところで、企業における人材育成的な観点と、働く側のキャリアアップといった啓蒙で、企業側、働く側、双方の活動の促進を進められたいという感じか。
- △ 達成度と今後の方向性について、事務局の自己評価は、達成度を「A」、今後の方向性を「充実」としている。
- 一定の評価が出ているので達成度は「A」だが、まだまだ課題もあるので今後の方向性は「充実」ということで、いいか。

(異議なし)

【議題2 男女共同参画基本計画（第2次）の総合評価について】

- < この日は、資料1により、事務局で作成した文案の読み上げのみ。
審議は次回の部会で行うことを説明。 >

【議題3 男女共同参画基本計画（第3次）の原案について】

①総論について

- < 7月6日審議会の資料4により審議 >

○ 総論の3ページ、女性は生活困難に陥りやすいとされているというところがあるが、これについての対応はどこかに出てくるのか。

△ 貧困に対しては、特に女性は非正規雇用が多いということから収入の上でも非常に差があるということ。市の施策全体の中では、セーフティーネットの問題などさまざまな施策があるが、ここでは、高齢者、障がい者の中でも、特に女性という理由で、経済的な困難もあるし、生活上の困難もあるということで、課題と認識している。施策としては、今のところ、就職に向けての支援や、ひとり親家庭への支援が中心になっていくと思う。

○ 今、労働局で正社員化促進キャンペーンを行っている。また、生活保護の方々の就労支援・促進を、ハローワークと市が連携する形で行っている。その対象に女性が多くなることもあると思う。

○ 福岡市は、先ほどの人口構成からいっても若い女性が多い。その人たちの今の就労形態に非正規が多いというデータはあるか。将来的にそういう人たちが、貧困化する可能性が高い、特に結婚しなかったり、子どももいないというようなことになると、単身で、ずっと非正規をつないでいくような形になる。今の福岡の特徴からいって、もしそういうデータがあれば、何か手を打つことを考えなければいけないと思う。

○ 生活保護世帯などで、女性の単身が特に高いというデータは出ないか。そこに問題があるのかどうか、よくわからないので。

○ これからの5年を考えたときに、介護の記述が少ないと思う。

△ 働いている人が、介護のために仕事を辞めるということか。

○ 現実問題として、介護のために辞める人が出てきているという話も聞くので。もう一つは、女性の政治参加というのとは言えないのか。

○ これだけ人口が増えていて、女性の割合も多いのに、女性議員が非常に少ない。

△ 現状を書くことはできるが、市役所としてどうかというのは難しい。

○ 参考指標のところ、労働時間を入れることはできないか。3次計画で、長時間労働の問題がいろいろなところに文言として出てくるが、実際、福岡の人たちの労働時間がどういうふうに変化しているのかというのが、5年間の計画の参考指標でわかると、全国とも比べることができて、有益なデータになると思う。

△ 市のデータとしては、26年度に実施した女性労働実態調査では把握しているが、次回も予算を確保して調査できるかはわからない。